

## 講座の概要

- 1 大学連携講座の名称：静岡建築茶会 2016 第1回
- 2 主担当大学及び所属：静岡理工科大学 建築学科設置準備室
- 3 連携先大学及び所属：静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科
- 4 開催日時： 10月 23日（日） 13時 30分～ 17時 00分
- 5 開催場所：浜松市・鴨江アートセンター
- 6 参加人数：43人

### 7 事業の概要と成果（講師、要旨を含む）：

#### 【第一部】

講師として、建築家の森下陽（amp / アンブ建築設計事務所）氏より、「敷地の特性に住宅をフィットさせる」と題したレクチャー、建築家ユニットの403architecture [dajiba]氏より、「都市で建築をつくる」と題したレクチャーをして頂いた。

続いて、コメンテーターとして web 上で建築系サイトを運営する後藤連平（architecturephoto.net 代表）氏より、「architecturephoto.net の可能性」と題したレクチャーをして頂いた。

#### 【お茶会】

休憩時間を兼ねて、お茶会として、地元・天竜でお茶を清算、販売される「百古里ファーム」の関係者にお越し頂き、当日、参加者に提供したお茶について説明していただくとともに、お茶を頂いた。

#### 【第2部】

登壇された建築家、コメンテーターに加え、モデレーターとして企画者でもある脇坂静岡理工科大学/ヒュッグ・デザイン・ラボ)、天内講師（静岡文化芸術大学）が参画し、「森下陽×403architecture [dajiba]×後藤連平×天内大樹×脇坂圭一」のメンバーで、ディスカッションを行った。

- ・当日は、建築関係者が主な参加者であったが、専門家に限らず、学生の参加者もあり、静岡の建築を巡って活発な議論が交わされた。
- ・また、静岡建築茶会では会場にもこだわりを持った選定をしている。第1回目は「浜松市 鴨江アートセンター」である。同建物は、浜松警察署庁舎として1928（昭和3）年に竣工した、地域の歴史を継承する建物である。
- ・なお、議論については記録集を作成し、レビューとして、登壇者の森下陽、辻琢磨、各氏に振り返りのテキストを寄稿頂いた。詳細はそちらを参照されたい。

## 講座の概要

- 1 大学連携講座の名称：静岡建築茶会 2016 第 2 回
- 2 主担当大学及び所属：静岡理工科大学 建築学科設置準備室
- 3 連携先大学及び所属：静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科
- 4 開催日時： 11 月 12 日（土） 13 時 30 分～ 17 時 00 分
- 5 開催場所：掛川市・松ヶ岡
- 6 参加人数：40 名
- 7 事業の概要と成果（講師、要旨を含む）：

### 【第一部】

講師として、建築家の渡辺隆（渡辺隆建築設計事務所）氏より、「公共の発注システムに入り込む」と題したレクチャー、建築家の後藤周平（後藤周平建築設計事務所）氏より、「静岡の敷地状況と住宅の可能性」と題したレクチャーをして頂いた。

続いて、コメンテーターとして東京で活躍する建築家の田井幹夫（アーキテクトカフェ主宰）氏より、「公共と建築の関係を展望する」と題したレクチャーをして頂いた。

### 【お茶会】

休憩時間を兼ねて、お茶会として、地元・天竜でお茶を清算、販売される「にしたな株式会社」の森下氏にお越し頂き、当日、参加者に提供したお茶について説明していただくとともに、お茶を頂いた。

### 【第 2 部】

登壇された建築家、コメンテーターに加え、モデレーターとして企画者でもある脇坂静岡理工科大学/ヒュッグ・デザイン・ラボ)、天内講師（静岡文化芸術大学）が参画し、「渡辺隆×後藤周平×田井幹夫×天内大樹×脇坂圭一」のメンバーで、ディスカッションを行った。

- ・当日は、建築関係者が主な参加者であったが、専門家に限らず、学生の参加者もあり、静岡の建築を巡って活発な議論が交わされた。
- ・第 2 回目の会場は掛川市の「松ヶ岡」である。同建物は、正式名称は、旧山崎家住宅として、現在、市の教育委員会が所有している。安政 3（1856）年築との棟札が残り、1878 年には明治天皇行在所となった、地域の歴史を継承する建物である。
- ・なお、議論については記録集を作成し、レビューとして、登壇者の渡辺隆、後藤周平、各氏に振り返りのテキストを寄稿頂いた。詳細はそちらを参照されたい。

## 講座の概要

- 1 大学連携講座の名称：静岡建築茶会 2016 第3回
- 2 主担当大学及び所属：静岡理工科大学 建築学科設置準備室
- 3 連携先大学及び所属：静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科
- 4 開催日時： 12月 11日（日） 13時 30分～ 17時 00分
- 5 開催場所：静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター
- 6 参加人数：35名
- 7 事業の概要と成果（講師、要旨を含む）：

### 【第一部】

講師として、建築家の後藤昌史（510 architects）氏より、「住宅を壁で閉じながらいかに開くか」と題したレクチャー、建築家の山田誠一（山田誠一建築設計事務所）氏より、「光と闇、寸法体系を用いて居場所を作る」と題したレクチャーをして頂いた。

続いて、コメンテーターとして編集者の橋本純（元・新建築編集長、ハシモトオフィス代表）氏より、「住宅を考え直す立場」と題したレクチャーをして頂いた。

### 【お茶会】

休憩時間を兼ねてのお茶会であるが、第3回目は提供者・協力者を見つけられず、市販品（地元産の茶葉を用いた製品）での提供を行った。

### 【第2部】

登壇された建築家、コメンテーターに加え、モデレーターとして企画者でもある脇坂静岡理工科大学/ヒュッゲ・デザイン・ラボ)、天内講師（静岡文化芸術大学）が企画し、「後藤昌史×山田誠一×橋本純×天内大樹×脇坂圭一」のメンバーで、ディスカッションを行った。

・当日は、建築関係者が主な参加者であったが、専門家に限らず、学生の参加者もあり、静岡の建築を巡って活発な議論が交わされた。

・第3回目の会場は静岡市の「静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター」である。同建物は、追手町の旧青葉小学校舎再利用として出発し、現在は移転して、2011年まで映画館「静活会館」（オリオン座＋有楽座）として、現在はクリエイター支援の機能を持つ、地域の歴史を継承する建物である。

・なお、議論については記録集を作成し、レビューとして、登壇者の渡辺隆、後藤周平、各氏に振り返りのテキストを寄稿頂いた。詳細はそちらを参照されたい。